

植物の認識と描画表現に関する考察

○大沢 力(七沢幼), 井上道子・加藤輝夫(まきやま幼), 平山照子(醫官学園幼), 岩瀬 希佐江(松谷幼), 石田 高幸(わせだ幼), 餅原 義(川口南幼), 目黒 徹三(大川戸幼), 曾根田 寛(前野みどり幼), 畑 公夫(聖仙女子短大)

I. はじめに

昨年の第40回大会において「果物の認識と描画表現に関する考察」を発表した。その結果、なしとりんごの表現には、一定のパターンがあることがわかり、これを分析して中くと子供の認識の特色が浮き振りにできたのである。発表の際、質疑の中で、「イモ掘り、なしもぎなど、行動をもち前後の表現をとらえることにより、子供の認識のパターンや特色がより明確にとらえられるのではないか。」という提言があった。そこで、本年はイモ掘りの前後をとらえ、特色のはっきり表れると思われる4歳児を中心に個々の日常の動きをも考慮しつつ、分析してみることにした。

II. 目的

幼稚園で生活している子供たちが、サツマイモをどのように認識しているかを探るため、イモ掘り前後の描画表現にみられる特色を分析し、サツマイモについての理解度やその特徴をどのようにとらえているか、又、イモ掘りという行動が与える影響についても含めて考察する。

III. 方法

調査は、収穫前に「サツマイモは、どのようなになっているか。」又、収穫後には「サツマイモは、どうなっていたか。」という言葉掛けにより、好きなように描かせた。画用紙は、収穫前後共、A 4では「B 4」、B 4では「B 5」を用い、個人用の12色クレヨンを自由に使ってなされたものである。

尚、調査対象は、4歳児：男児52名、女児42名、の計94名で、参考として、5歳児：男児27名、女児27名の計54名も同時に調べた。A・B 2園共、都内にあり、昭和62年10月に実施した。

IV. 結果及び考察

サツマイモの認識と描画表現の関わりをA.葉、B.つる(莖)、C.実、D.土、E.芽・畑以外の描画物、F.4・5歳児の比較、G.総合考察という7つの項目から分析してみる。尚、上段は出現数、下段は全調査対象数(4歳94名、5歳54名)中の出現頻度を示している。

A. 葉 (表1参照)

イモ掘り後には、葉を描く子が13.8%増加しており、その表現も単純な一や0から半や田へと移行している。

色については、黄緑を使う子が13.9%、緑は6.4%増加している。葉の形や色に対する認識は確実に高まってきていることがわかった。

B. つる(莖) (表2参照)

つるに関しても葉同様、イモ掘り後に描き出す子が2.4%増加している。しかし、その表現は、曲線というより直線を主体としたものが多く、地下より地上を中心に描き出していた。このことより、つるというより、その色や太さ、位置なども考え、草花の茎としてとらえている傾向がわかった。又、一本のつるが枝分かれしていることに気付いている子が少ないこともはっきりした。

C. 実 (表3参照)

イモの形は、○か□が多く、変形したものを描いたものは2〜3の例しかなかった。つるが枝分かれしてその先にイモが成っていることやイモに根がついている(糸)ことに気付いていた子は極くわずかであった。色については、茶色や赤が圧倒的に多く、混色で微妙に表現する子も15%程いた。イモに点がついているのは、ついた土を表しているものである。地上が地下ということでは、掘った後は地下が25.5%多くなり、イモ掘りに行った影響が強く表れている。

D. 土 (表4参照)

イモ掘り後は、土を描く着が25.5%増え、それ単でなく、~~土~~といったより具体的な表現となってきている。色は実との区別をはっきりさせるため、黒が15.9%増加し、部分についても3パターン増加している。

E. 芽・畑以外の描画物 (表5参照)

太陽・人間・空・雲等、イモ掘り後はイモを掘った行きの喜びと共にまわりの様子や仲間のことなどが生々として表われてくる。

F. 4・5歳児の比較 (表6参照)

葉・つる・土とも、イモ掘り後には描き出す子が確実に増加しており、認識は進んでいる。しかし、その度合いについては、4歳児に比べ5歳児の方が少ない。それは、やはり4歳児が初めての経験であるということが大きな原因になっているのであろう。

G. 総合考察

イモ掘りという行動の影響の大きさをも再確認させる

表.1 葉のパターン分析結果

項目 時期	形									
	丸	1	並	山	0	0	0	半	線	塗
前	36	6	0	18	10	11	0	14	21	32
	38.3	6.4	0	19.1	10.6	11.7	0	14.9	22.3	34.0
後	23	2	8	24	12	17	0	10	32	34
	24.5	2.1	8.5	25.5	12.8	18.1	0	10.6	34.0	36.2

項目 時期	色				
	緑	黄緑	黒	赤	
前	32	16	2	8	
	34.0	17.0	2.1	8.5	
後	38	29	3	3	
	40.4	30.9	3.2	3.2	

表.2 つる(茎)のパターン分析結果

項目 時期	形					
	丸	1	色	ハ	ハ	線 塗
前	43	29	12	5	6	42 5
	45.7	30.9	12.8	5.3	6.4	44.7 5.3
後	36	40	11	1	5	51 4
	38.3	42.6	11.7	1.1	5.3	54.3 4.3

項目 時期	色									
	緑	黄緑	茶	黒	赤	黄	水			
前	16	13	10	0	9	8	1	0		
	17.0	13.8	10.6	0	9.6	8.5	1.1			
後	17	18	9	0	4	2	1	4		
	18.1	19.1	9.6	0	4.3	2.1	1.1	4.3		

表.3 実のパターン分析結果

項目 時期	形									
	丸	0	0	0	0	0	0	線	塗	
前	1	48	41	23	13	3	2	26	66	
	1.1	51.1	43.6	24.5	13.8	3.2	2.1	27.7	70.2	
後	3	33	37	14	13	7	3	32	54	
	3.2	35.1	39.1	14.9	13.8	7.4	3.2	34.0	57.4	

項目 時期	色									
	茶	黒	赤	紫	青	黄	緑	白	点	
前	41	0	5	30	3	0	2	2	15	6
	43.6	0	5.3	31.9	3.2	0	2.1	2.1	16.0	6.4
後	41	1	10	24	5	3	3	2	13	3
	43.6	1.1	10.6	25.5	5.3	3.2	3.2	2.1	13.8	3.2

項目 時期	位置		
	地上	地下	上下
前	18	42	25
	19.1	44.7	26.6
後	22	66	5
	23.4	70.2	5.3

れた思いがする。前後を比べてみると、実施後の喜びが色や表出物に表れると共に、実際のイモや畑の様子を幼児特有のレントゲン描法により正確に表現している。又、イモ掘り前はアニミズムの典型とも思えるイモの家族の絵が表れられ、自分とイモが同格にある

表.4 土のパターン分析結果

項目 時期	形			色			部分			
	丸	一	茶	山	黒	混色	以下	1/2	以上	
前	35	11	39	33	0	15	3	27	7	19
	37.2	11.7	41.5	35.1	0	16.0	3.2	28.7	7.4	20.2
後	11	11	68	46	0	30	4	36	19	26
	11.7	11.7	72.3	48.9	0	31.9	4.3	38.3	20.2	27.7

表.5 芋畑以外の描画物の出現数及び出現頻度

項目 時期	太陽 人間 桜 葉 空 雲 花					
	太陽	人間	桜	葉	空	雲 花
前	7	12	0	4	11	5 2
	7.4	12.8	0	4.3	11.7	5.3 2.1
後	40	34	0	4	29	25 0
	42.6	36.2	0	4.3	30.9	26.6 0

表.6 4・5歳児の比較

項目 時期	葉			つる(莖)			実						土			人 間
	丸	線	塗	丸	線	塗	丸	線	塗	地上	地下	上下	丸	一	間	
4 前	36	21	32	43	42	5	1	26	66	18	42	25	35	11	39	12
	38.3	22.3	34.0	45.7	44.7	5.3	1.1	27.7	70.2	19.1	44.7	26.6	37.2	11.7	41.5	12.8
後	23	32	34	36	51	4	2	32	54	22	66	5	11	11	68	34
	24.5	34.0	36.2	38.3	54.3	4.3	2.1	34.0	57.4	23.4	70.2	5.3	11.7	11.7	72.3	36.2
5 前	8	9	39	11	35	8	0	3	49	7	48	1	0	6	53	13
	14.8	16.7	72.2	20.4	64.8	14.8	0	5.6	90.1	13.0	88.9	1.9	0	11.1	98.1	24.1
後	2	15	36	9	39	4	0	4	48	3	50	0	0	5	49	2
	3.7	27.8	66.7	16.7	72.2	7.4	0	7.4	88.9	5.6	92.6	0	0	9.3	90.7	3.7

が、イモ掘り後には、自分とイモの関係がはっきりとし、その表現も細部に注意を払う者も多くなる。体験を通して、その喜びと共に自分のまわりに対する認識が深まってゆく様子がよくわかった。そして、2回・3回目より、初めての体験の重要性も4・5歳児の比較によりわかってきた。

V. おわりに

今回の研究により、イモ掘り前後の描画表現の傾向やサツマイモに対する理解の動向がわかったと共に、データの収集や整理のポイントもつかめてきた。そこで、来年度は、データ数を増やし、この研究をより確かなものとしてゆきたい。そして、子供たちが植物をどのように受けとめ、それを表わしてゆくか、そのメカニズム解明の糸口を見い出せることを願うと共に、子供たちが生々とした稚拙な生活を楽しめるような植物環境の活用と研究してゆきたいと思う。

<参考文献>

- ・認識を育てる自然の指導 山内昭彦著 フレイル館
- ・児童心理学 藤永 保編 有斐閣
- ・子どもの絵の見方育て方 鳥居昭美著 大月書店